

公募型プロポーザル方式による設計者選定・特定評価基準

□ 共通事項

1 失格(無効)の判断

提案を失格(無効)とする場合は、各要領等に記載している提出物の応募条件への違反等、次の諸点を勘案して、評価委員会の意見を聴取した上で、井手町が決定する。

- (1) 設計図等、応募条件で禁止されている過大な提出物があった場合
- (2) プロポーザル提出物の内容に虚偽の申告があった場合
- (3) 評価委員会の委員等に働きかけ、審査の結果に影響力を行使しようとした場合
- (4) これらと同等と認められる不適当な行為があった場合

2 配点について

- (1) 主観的評価(太線枠の事項)の各評価事項については、評価委員会委員がA、A1、B、B1、Cの評価を行う。
- (2) 客観的評価(二重線枠の事項)の各評価事項については、評価委員会事務局によってあらかじめA、B、C等の段階評価による評価点の換算又は評価点の積み上げにより評価を行う。
- (3) 原則、評価点の計算は、各項目の配点×評価係数とする。
- (4) 段階評価による評価係数は、A=1.0、A1=0.8、B=0.6、B1=0.4、C=0.2とする。

3 業務実績について

- (1) ア(i)及び(iii)における業務実績は、平成15年4月1日以降に竣工した建築物の基本設計又は実施設計を元請けで受注し、完了したものを実績とする。また、面積については、新築部分又は増築部分の延べ面積とする。
- (2) 公共施設とは、国又は地方公共団体若しくは公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律(平成12年法律第127号)第2条第1項に規定する法人若しくは地方道路公社法(昭和45年法律第82号)に基づく地方道路公社が発注する施設とする。

ア 担当チームの能力(技術職員の経験及び能力)

(i) 事務所の実力(業務実績の種別及び規模)

事務所としての業務実績について、実績毎に下表の評価事項により評価する。

$$\text{評価点} = \text{実績1件毎の配点数(2点)} \times \text{実績1件毎の評価点(①+②)} \\ \text{を4件合算}$$

評価事項

区分	規模等	評価点
種別 ①	庁舎(議会機能を含む)	0.6
	庁舎(議会機能を含まない)	0.4
	公共施設	0.2
	上記以外の複合施設	0.1
面積 ②	5,000㎡以上	0.4
	3,000㎡以上5,000㎡未満	0.3
	3,000㎡未満	0.2

(ii) 管理技術者及び主任技術者の資格・経験

担当チームの能力を、各担当技術者の資格・経験で評価する。

$$\text{評価点} = \text{配点数(1点)} \times \text{資格・経験評価係数}$$

①管理技術者

評価事項	評価内容		評価(評価係数)
資格・経験	資格・経験係数 ※	18.0～	A(1.0)
		15.0～17.9	B(0.6)
		～14.9	C(0.2)

②主任技術者

評価事項	評価内容		評価(評価係数)
資格・経験	資格・経験係数 ※	12.0～	A(1.0)
		8.0～11.9	B(0.6)
		～8.0	C(0.2)

※ 資格・経験係数＝技術者資格係数(表1)×経験年数

(表1)技術者資格係数

技術者 資格係数	資格	資格係数
	一級建築士、建築設備士、技術士	1.0
	その他	0.5

- (iii) 管理技術者及び主任技術者の業務実績
 担当チームの能力を、各担当技術者の業務実績で評価する。
 技術者の業務実績の種別、規模等から5段階(A、A1、B、B1、C)の評価係数で評価する。

<p>評価点 = 配点数(1点又は2点 ※) × 業務実績評価係数 ※管理技術者の配点数は2点とする。</p>

評価事項	評価内容		評価(評価係数)
業務実績	業務実績係数 ※	1.6以上～	A(1.0)
		1.2以上1.6未満	A1(0.8)
		0.8以上1.2未満	B(0.6)
		0.4以上0.8未満	B1(0.4)
		0.4未満	C(0.2)

※ 業務実績係数＝業務実績内容係数(表2)×業務実績立場係数(表3)
 + (表2) × (表3)2件分

※ 業務実績立場係数(表3)は管理技術者及び意匠担当主任技術者のみに適用する。

(表2) 業務実績内容係数

各実績の内容係数を乗じた数値を係数とする

<p>業務実績内容係数 = 区分係数① × 区分係数②</p>

区分	規模等	区分係数
種別 ①	庁舎(議会機能を含む)	1.0
	庁舎(議会機能を含まない)	0.6
	公共施設	0.4
	上記以外の複合施設	0.2
面積 ②	5,000㎡以上	1.0
	3,000㎡以上5,000㎡未満	0.6
	3,000㎡未満	0.4

(表3) 業務実績立場係数

業務実績における立場	業務実績立場	立場係数
	管理技術者、意匠担当主任技術者	1.0
	その他主任技術者、担当技術者	0.5

- (iv) 管理技術者及び意匠担当主任技術者の繁忙度
手持ち業務と本件業務との重なり程度を、様式2-2の「現に従事している主な設計業務及び監理業務」欄の記載から3段階(A、B、C)で評価する。

$$\text{評価点} = \text{配点数(2点)} \times \text{管理技術者及び意匠担当主任技術者繁忙度評価係数}$$

評価事項	評価内容	評価(評価係数)
管理技術者・意匠担当主任技術者の繁忙度	委託期間中を通して手持ち業務との重なりがない。	A(1.0)
	手持ち業務と重なりが一時ある(委託期間のうち60%未満)が、程度から判断して業務遂行が可能。	B(0.6)
	委託期間中を通して手持ち業務との重なりがある(委託期間のうち60%以上)。	C(0.4)

イ 担当チームの対応(業務実施の方針等)

- 1 技術提案書により、5段階(A、A1、B、B1、C)で評価する。

評価事項	評価内容	評価				
		A (×1.0)	A1 (×0.8)	B (×0.6)	B1 (×0.4)	C (×0.2)
(i) 企画意図の理解、実施手順の明確性	業務実施方針	極めて良好	良好	普通	やや不十分	不十分
(ii) 業務実施方針の妥当性(的確性、機能性、成果達成の期待度、実現性)	テーマ①～③	極めて高い	高い	普通	やや低い	低い
(iii) 経費の見積価格	見積価格と予定価格の比較					

2 評価点の算出

$$\begin{aligned} \text{(i) 評価点} &= \text{配点数(5点)} \times \text{(i) 評価係数} \\ \text{(ii) 評価点} &= \text{配点数(20~25点)} \times \text{(ii) 評価係数} \\ &\quad \text{※各テーマについて評価} \\ &\quad \text{※テーマ①:20点、テーマ②:25点、テーマ③:20点} \\ \text{(iii) 評価点} &= (\text{配点数(5点)} - 1) \times \{ [1 - (\text{見積価格}) / (\text{予定価格})] \times 5 \} + 1 \\ &\quad \text{※[]内}が1を超える場合は最大1とする \end{aligned}$$

(iii) 経費の見積価格の算出例

予定価格 5000 万円(実際の予定価格とは異なります)に対する見積価格が 4750 万円(95%)、4500 万円(90%) 及び 3750 万円(75%)の場合

・95%の場合: 配点数 $\times \{ (1 - 4750/5000) \times 5 \} = \text{配点数} \times 0.25$

・90%の場合: 配点数 $\times \{ (1 - 4500/5000) \times 5 \} = \text{配点数} \times 0.5$

・75%の場合: 配点数 $\times \{ (1 - 3750/5000) \times 5 \} = \text{配点数} \times 1.25 \rightarrow \text{配点数} \times 1.0$

※見積価格が予定価格の80%以下は一律、配点数 $\times 1.0$ とする